

〔二十周年記念行事報告〕

二十周年記念行事実行委員長 平間 洋一

昨年六月以来、幹部候補生学校入校20周年に当り各種の記念行事を計画してきた。各地区委員等からの連絡等により、既にその概要は了解されていることと思うが、遠隔地の級友あるいは今後とも協力をお願いせざるを得ない植樹等の問題もあり、ここに記念行事の概要を報告し御理解と今後の御協力を得たいと思う。

一、20周年記念行事に当っての方針(スローガン)

「団結の輪を未来に」

「旧友を戦列に」

「団結の輪を家族に」

二、中央集会

「団結の輪を家族に」ということから夫人同伴とし、大森・佐々木(正)両兄の大奮闘により、教官・級友百二十余名が出席し別添の新聞記事・写真のとおりきわめて盛大に開催された。

なお、本誌を借りて、クラス会に御出席を戴き御芳志を賜った教官・名誉会員の方々に心から御礼を申し上げますとともに、当日はブラジルはじめ、全国の級友及び有志から御芳志及び祝電を戴いたので紙上を借り紹介し謝意を表したい。

御芳志

有志 古河みつ子(呉・千茂登)

OB 西成昭美・伊東靖郎

編集者でもないのに編集に口を出し、かなり個性が感じられるアクの強い雑誌となってしまうが、内容的にも楽しい、また多岐にわたるものとなったと信じている。

多忙の中に執筆を戴いた両校長、教官及び六、七期の先輩や十一期の後輩、そしてわれわれを育て支えてくれた人達からも、多数の原稿を戴いたことを喜ばしく思うとともに、この機会を利用して、原稿を戴いたことのみならず、今日までわれわれに与えられた御指導、御厚情に心から謝意を申し上げたい。

また、外野の部については、なんとなく私を囲む観もあり多少恐縮している。しかし、六期生から戴いた原稿には、クラスとして、特に防大卒として反省させられ、また考えねばならぬ問題を含んでいるように思う。とは言うものの、八期が防大、一般大混合クラスという宿命を変えることはできず、九期以降もこのような構成である以上、われわれが先駆者として後輩に模範を示さなければならぬとも思う。

この観点から、本会報がクラスの団結に寄与し、クラス会の今後のあり方について考えて行く嚆矢となることも、念じて編集したつもりである。

東京地区会員(高橋・下知・中山・松崎)

祝電

有志 十一期生会・十三期生会

OB 伊東靖郎・西成昭美

現役 後藤 理・馬場駿快・松野下忠介

一術校(稲葉・谷)

三、記念品

20周年を記念して何か記念品を作成しては、との意見もあったが希望者も少なく今回は大部分が未だ現役でありノスタルジアには至っていない。少ない予算を細分するより重点指向をとの意見が強く、見送ることとした。

四 記念植樹

永久に残ること、さすがは八期と言われることを目標に種々検討した結果、一術校重村兄等の多大の尽力により、第一案としては最大欲ばって一術校第一グラウンドの囲りに「コ」の字形に植樹し桜並木を作る。第二案、「コ」の字形が不可能ならば「L」字形あるいは一列となるが、いずれにしても20周年記念樹にふさわしい規模となるようにしたいものと交渉中である。しかし、認可に手間どり、植樹が困難な季節になる恐れが生じたため、とりあえず五月十二日、本年度分として一術校幹部講堂(幹部候補生学校裏)下の道路に添って染井吉野8本を植樹した。

なお、末尾となってしまうが、本誌発刊に際して、校正については誤字、脱字を書く級友が多いのは教官の責任と総てを堀之内教官にお願いし、編集・印刷、特に雑多なアンケートから名簿の整理に関しては総てを共栄印刷の一戸和雄氏の献身的協力に甘えたことを申し添え、ここに両氏の御協力・御支援に対し心から謝意を表したいと思う。

(平間記)

